

## 効率への再考

東京学芸大学講師 佐野亮子

ここ数年で、単元内自由進度学習の実践づくりに関わる機会が増えた。研修会等で参加者からよく出るのが「準備がたいへんではないか」という仕事の効率性に関わる質問である。

たしかに、準備にエネルギーと時間が必要なのが、この学習方法の特徴ではある。どんな手間がかかるのか、いくつか挙げてみると、たとえば経験のない教師は「何のために、何をどうする実践なのか」について学ぶ必要がある。実践にあたっては、事前に子どもが自力で学べる教材をつくるので、単元の教材研究と子どもの実態把握は不可欠となる。そして多くの場合、子どもが体験や活動を通して学べる環境を準備する。実践が始まってからは、子どもの学びをよく観察して、途中で環境に手を加えることも起こる。どれも削れない教師の仕事で、手軽さからは程遠い。それでも実践される理由はどこにあるのだろう。

学習方法として確かな手応えを感じるのは、まず子どもたちの反応である。嬉しいことに、実践後の子どもたちの評価はとても高い。その理由も「自分のペースで進められる」「学びにおいて選択の機会が多くある」「自分の得意や苦手を知れる」「達成感を感じられる」などであり、単元内自由進度学習の特性をしっか

りとらえている。

はじめて実践した先生からは「子どもの時にこういう授業を経験してみたかった」という感想をきくことがある。若い先生が実践にトライして、子どもが夢中で学ぶ姿に感動し、それをエネルギーにしてワクワクしながら次の教材開発を進めている姿は頼もしい。

単元内自由進度学習は手間のかかる方法だが、つくられた実践の記憶は色褪せないと感じることもある。定年退職後に再任用で専科担任になった先生が「40年前にやっていた」と素敵な単元ボード（単元名と学習内容を象徴する大型看板）を制作し、注目されていた。また、小学校時代に実践を経験し「水産業の授業で大きなマグロの頭が教室においてあった。そのマグロと同じ重さの石を2階からロープで引き上げる活動をした」と語っていた先生は、現在この方法の実践研究と研修を牽引している。

単元内自由進度学習は、自己学習力を育むために開発された方法である。大きな目標は「自立した学習者を育てる」のだから、はじめから簡便で効率的なやり方はないと思う。あるとすればそれは、手間をかけた人が、やった先で実践を振り返り、それぞれが次をつくるために考えたやり方なのだろう。

## ◆こんな授業をつくってみました

### 算 数 「面積」

### 外国語 「Unit7 Welcome to Japan!」

2 教科同時進行単元内自由進度学習（小学5年）

愛知県知多市立つつじが丘小学校 佐方貴文



## 1 はじめに

本校は、約50年前に建築された集合住宅とその外周に住宅地が並ぶ半径約1km程度の市内でも一番小さな学区をもつ小学校である。また、全校児童の2割程度が外国にルーツをもつ児童が在籍しているのも特徴の一つであり、一斉授業が成り立ちにくいという現状もある。そこで、単元内自由進度学習に取り組むことで、児童が生き生きと学習に取り組む姿が見られ、また、教師も児童の一斉授業の時とは異なる姿を見ることができるのではないかと考え、本実践に取り組んだ。

## 2 これまでの実践

5年生は、本校唯一の単学級である。これまでに、担任が、社会「水産業のさかんな地域」「自動車工業のさかんな地域」をそれぞれ1教科ずつ単元内自由進度学習で行ってきた。

児童は、自分のペースで学習を進め発展学習にのめり込む子、タブレット操作の特技を生かしてまとめの作品を作り上げる子など、生き生きと学びに向かっていた。

そこで、さらに多くの時間を委ねることで、よりダイナミックな活動を展開してほしいと考え、2教科同時進行単元内自由進度学習を行うことにした。

## 3 単元計画について

本実践においては2教科同時進行で行うため、算数は担任、外国語は教科担任（筆者）とALTが担当した。

算数「面積」は、既習の三角形、長方形、正方形の求積に加えて、平行四辺形、台形、ひし形の求積を行う単元である。教科書の流れに沿って進めていくコースや、図形を切り貼りし既習事項をいかして公式を生み出すコース、公式の意味を説明するコースの3コースを設定し、自分の興味関心や追究スタイルに応じて児童が選択できるようにした。

外国語「Unit7 Welcome to Japan!」は、「want to～」の表現を使って、日本のどこに行きたいか、そして、そこで何がしたいかなどについて尋ねたり、答えたりする単元である。この学習については、ほぼ教科書に沿った流れの学習を進めた後に、ALTによる1対1の対話形式のチェックを行う。そして、都道府県の中から紹介する県を一つ選び英語で紹介する最終課題に取りかかり、そのアウトプット方法を児童の興味関心や追究スタイルに応じて児童がCM作り、プレゼンでの紹介、パンフレットでの紹介の中から選択できるようにした。

## 4 学習材や学習環境の工夫

ここからは、筆者が担当した外国語の実践

について詳述する。

メインの教材については、個人用のタブレット端末から閲覧できる外国語のデジタル教科書とイヤホンを用いた。学習カードは、主に学習内容の指示書のような形で作成した。また、都道府県の中から一ヵ所を選び紹介する最終課題については、ヒントカードを作成し、作成手順や原稿の参考になる表現などを示し、苦手な児童でも真似をして作成できるようにした。

また、全面黒板には本単元で扱うターゲットセンテンスを単語レベルのカードで掲示し、カードを貼り替えることで様々な英文が作れるようにした。背面黒板には、必要な動詞や形容詞、名詞の掲示をし、いつでも必要な情報を手に入れられるよう工夫した。

## 5 子どもの学ぶ姿から

まず、英語は好きだが、一斉授業だとなかなか集中できず、すぐに手遊びなどをしてしまい、眠くなってしまうこともあるA児について紹介する。A児は、授業始めに全員で行っている歌とチャンツを、毎回ノリノリで踊りながら楽しんだ後、集中して学習カードを進めていた。英文を自分が分かるまで何度も聞き、取り組む姿は普段の一斉授業からは想像もできない姿であった。最終課題は、CM作りを選択し、試行錯誤しながらも楽しんで制作を進め、学級全体の2番目の早さで外国語の学習を終えた。自分のペースでできることで集中力を発揮できたように感じられた。

次に、英語が苦手で、どんな事にも自信がもてないB児について紹介する。B児は、何をするにも不安で、どうしたらいいか分からず活動が停滞していることが多かった。まず、「学習カードをしっかり読むこと」と、「分からな

ければ先生に聞くこと」の2つをアドバイスし、数時間様子を見た。自分で解決できないと分かり、勇気を出して教師を頼ってきた。必要な個別指導を実施すると、やることが明確になり、どんどん自信を付けて、最終課題も級友の前で堂々と発表することができた。なんとかしなければならないという思いが自分の殻を破り、教師を頼ることにつながり、目標を達成し、自信をつけることにつながったように感じられた。



自信をもち、プレゼンする

最後に、英語が得意で、学習塾でも英語を習っており、一斉授業でも全体をリードする存在のC児について紹介する。C児は、前半の課題を2校時程度で済ませ、難なく最終課題まで駒を進めた。最終課題についてC児はCM作りを選択した。CMの中で視聴者に疑問文で語りかけ、それに返答をしていく形式を考え、そこに必要な映像を加えて、非常にクリエイティビティが高い作品に仕上げた。これまでの授業では「みんな一緒に」がベースにあったため、十分に発揮できなかったC児の英語力を十分に発揮させることができた。CM作りには6校時ほど費やし、完成後の表情には満足している様子がうかがえた。

一斉授業では「待たされる」側の児童が、その不要な時間を追究時間に回せる。そういうことも、この学習の大きなメリットと言えるであろう。

## 2025年度 **日本個性化教育学会全国大会のお知らせ**

※詳細は、5月にご案内します。ホームページでもお知らせいたします。

### (1) 期 日 **2025年8月2日(土)・9日(土)**

今回は1日を対面(オンライン配信あり)、もう1日をオンラインで開催します。  
そのため、移動のことも勘案し、日程を離しての開催となります。  
是非、東浦町までお出かけ下さい。

### (2) 内 容 **① 8月2日(土) 愛知県東浦町文化センター(対面+オンライン配信)**

住所： 愛知県知多郡東浦町大字石浜字岐路10

JR 武豊線「緒川駅」または「石浜駅」から徒歩10分  
講演、シンポジウム等に加え「日本個性化教育文庫」のお披露目の会を予定。  
当日の夜、現地で久々の懇親会も開催します。

※宿泊が必要な方は、各自で手配してください

### **② 8月9日(土) オンライン**

午前：自由研究発表 同封の別紙にてお申し込み下さい。

午後：分科会：4つの分科会を企画しています。

※全国理事会は昼休み、会務総会は夕刻にオンラインで開催します。

## **☆学会メーリングリストの現状報告**

昨年、東京事務局と全国の地方事務局をつなぐメーリングリストが閉鎖になりました。

その後、新しいメーリングリストが再開していません。閉鎖の理由は、会社が事業をとり止めしたことによります。次に選んだ会社は、HPのサーバを借りている会社ですが、Gmailの新しいセキュリティ基準でGmailが迷惑メールと判定されて送れません。

今、対策をとっている最中ですが、この基準をクリアしている他の会社は、  
使用料が高くて本学会程度の小さな組織では、まかないきれない金額なのです。  
というわけで、もうしばらく、再開はお待ちください。



事務局への問い合わせ 執務部長 佐久間茂和

〒362-0064 埼玉県上尾市小藪谷 77-1 3-28-502

TEL 080-5429-1681

E-mail [sakuma.shigekazu@jcom.zaq.ne.jp](mailto:sakuma.shigekazu@jcom.zaq.ne.jp)

日本個性化教育学会 HP <https://koseika.com>

日本個性化教育学会 第46号

2025年3月22日発行

編集責任者 事務局長 奈須正裕

編集 中澤米子